

# 生物資源経済研究

---

No. 22

2017年

---

地域農業ガバナンスの再編の論理

— コーポレート・ガバナンス論を援用して —

..... 伊庭 治彦 ( 1 )

「新常态」に入った中国の農産物貿易の新動向

— 迫りつつある輸入農産物の脅威にどう対処すべきなのか —

..... 沈 金虎 ( 13 )

The Impacts of Migration and Remittances on

School Attainment of Children in Rural Cambodia

..... Seiichi FUKUI and Likanan LUCH ( 41 )

Factor Endowment-commodity Output Relationships in a Three-factor,

Two-good General Equilibrium Trade Model

..... Yoshiaki NAKADA ( 61 )

先進的農業経営体における経営資源と経営戦略

— 地域・農協との連携に焦点を当てて —

..... 小田 滋晃・坂本 清彦・川崎 訓昭 ( 99 )

---

京 都 大 学 大 学 院 農 学 研 究 科

生 物 資 源 経 済 学 専 攻

## 『生物資源経済研究』規定

### 1. 投稿資格・著作権・編集要領

- 1) 単著論文の投稿資格者は、生物資源経済学専攻（以下、専攻と略記）教員、本専攻在籍中ないし在籍後5年以内の内地研究員・外国人招聘学者・外国人共同研究者、および編集委員会で特に認めたものとする。なお、別途定める『生物資源経済研究』内規に基づき、本専攻の院生（およびこれと同等以上と認められる者）も、専攻会議の了承のもとに投稿できる。
- 2) 共著論文の第一執筆者は本専攻教員に限定するものとする。
- 3) 著作権：本誌に掲載された論文・抄録の著作権は、本専攻に属するものとする。なお執筆者自身が自らの論文を利用することは差し支えないものとする。
- 4) 原稿の採否の決定：原稿の採否は、編集委員会が決定することとする。採用決定日をもって受理日とする。
- 5) 発行回数と別刷り：年1回発行を原則とする。別刷りは各原稿当たり50部まで無料で著者に贈呈し、それ以上は著者の実費負担とする。なお、必要に応じて『特集号』等を発行できることとし、その発行については「3.『特集号』等の発行」に定めるとおりとする。
- 6) 著者校正：著者校正は原則として2回行う。誤植以外の加筆・修正はできないこととする。

### 2. 執筆要領

- 1) 原稿種別は論文と研究ノートの2種とし、投稿者は投稿時に種別を明記する。
- 2) 原稿枚数は、図・表を含め、和文の場合は横書き400字詰め原稿用紙換算で50枚以内、英文の場合は、A4用紙にダブルスペース（28行、1行10～15単語）で30枚以内を目安とする。和文の場合は英文抄録（300単語以内）と英文題名を、英文の場合は和文抄録（800字以内）と和文題名を投稿時に添付する。原稿は完成原稿とそのハード・コピー2部を、データ・ファイルを添付の上で、編集委員長ないし副委員長に提出するものとする。
- 3) 特殊な専門用語・学術用語のほかは、原則として新仮名遣い・常用漢字を使用する。
- 4) 論文の節項表示は、1. (1)、1)、a のようにする。
- 5) 単位は%、kg、haなどの略号を用い、数字は5億6,728万などと表す。
- 6) 図表は、図1、表1 (Fig1. Table 1) のように示す。また図表の挿入位置については、完成原稿の右余白に朱書きで明示する。
- 7) 本文注記は頁ごとではなく本文末尾に一括して掲載する。また引用文献は注記を原則とし下記の要領によるものとするが、各分野学会誌の様式に準じた表記も認める。

#### ①和文の場合

- a. 著者名「書名」（シリーズ名）、出版社、出版年（奥付けによる）、ページ。
- b. 執筆者名「論文名」、編著者名「書名」（シリーズ名）、出版社、出版年、ページ。
- c. 執筆者名「論文名」、『雑誌名』巻号（年月）、ページ。

#### ②欧文の場合

- a. 名頭文字・姓、書名（出版年：出版社、出版年）、p.（またはpp.）
- b. 名頭文字・姓、“論文名”、雑誌名、巻号（月、年）、p.（またはpp.）

### 3. 『特集号』等の発行

- 1) 年1回の定期発行の他に、編集委員会で企画・発議し、専攻会議の承認を得ることにより『特集号』等を発行することができる。
- 2) 『特集号』等の発行については、本規定の「1.投稿資格・著作権・編集要領」および「2.執筆要領」に準じるものとするが、編集委員会で別に定める場合はこれにしたがうものとする。
- 3) 発行に関わる費用は通常号とは別扱いとし、専攻会議の承認を得て財源を手当てすることができる。

## 付 記

- (1) 本規定の改正は専攻会議の承認を得なければならない。
- (2) 本規定は平成7年9月14日より実施する。
- (3) 本改正は平成13年7月31日より実施する。
- (4) 本改正は平成17年2月1日より実施する。
- (5) 本改正は平成20年1月1日より実施する。
- (6) 本改正は平成27年1月8日より実施する。
- (7) 本改正は平成28年2月1日より実施する。

## 執筆者紹介 (掲載順)

伊庭 治彦 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻 (経営情報会計学分野)  
沈 金虎 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻 (地域環境経済学分野)  
福井 清一 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻 (国際農村発展論分野)  
ルチリカナン カンボジア国会付属研究所  
中田 義昭 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻 (国際農村発展論分野)  
小田 滋晃 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻 (経営情報会計学分野)  
坂本 清彦 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻  
(「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座)  
川崎 訓昭 京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻  
(「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座)

## 『生物資源経済研究』第22号の編集を終えて

『生物資源経済研究』を発行する主要な目的の一つは、生物資源経済学専攻の教員による研究成果を公表し、当専攻がどのような研究を行っているのかを、社会に説明することにあると考えている。しかし、近年、専攻教員の多くは、そのような場として本誌を利用していない。その理由は、本誌に掲載された後、修正を施し査読付きの他の学術誌に投稿することが困難 (大幅に修正すれば可能) であること、本誌の社会的評価が必ずしも高くないことによるものと思われる。他に類似の学術誌が数ある中で、論文の質を維持しながら、学術誌を発行してゆくことは容易ではない。それでは、どのようにすれば、専攻教員の研究成果を発表し社会に対する説明責任を果たすことができるのだろうか。研究成果の公表方法には、いくつかの方法がある。一つは、ホームページに、各教員の研究業績を記載することであろう。この方法は、多くの教員が採用しているが、タイトルや雑誌名だけでは、専門家以外、具体的な研究内容が容易に推察できないことである。もう一つの方法は、ディスカッション・ペーパー、あるいは、ワーキング・ペーパーとして、専攻ホームページに搭載することである。この方法なら費用は安価で、査読付き学術誌に投稿することが可能であり先述した教員が本誌に投稿しない理由の第一については抵触しないし、業績としても記載できる。『生物資源経済研究』を存続させるか否か、そろそろ、本気で考える時期に来ているのではないだろうか。(SF)

平成29年3月10日

## 『生物資源経済研究』第22号編集委員 (五十音順)

伊藤淳史 伊庭治彦 (副委員長) 梅津千恵子 大石和男  
北野慎一 栗山浩一 辻村英之 福井清一 (委員長)

## 生物資源経済研究 第22号

2017年3月15日 印刷

2017年3月25日 発行

編集 京都大学大学院生物資源経済学専攻  
生物資源経済研究 編集委員会

電話 075-753-6201

発行 京都大学大学院生物資源経済学専攻  
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印刷 創文堂印刷(株)

平成 年 月 日

御中

京都大学大学院農学研究科  
生物資源経済学専攻

刊行物資料の送付について

このたび下記の『生物資源経済研究』を専攻紀要として刊行いたしました。  
御高覧いただきたく御送付申し上げます。

お手数ながら下添の受領書を御送付下さるようお願い申し上げます。

なお、今後新資料の御刊行の節は御恵贈賜りたくお願い申し上げます。

記

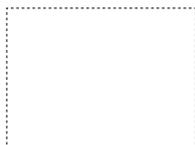
生物資源経済研究 第22号

1部

2  
0  
5  
8  
6  
0  
6

京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院農学研究科  
生物資源経済学専攻事務室 行



# 受領書

生物資源経済研究 第22号

1部

上記刊行物受領いたしました。

平成 年 月 日

住 所

機関名

氏 名

印

# The Natural Resource Economics Review

---

No. 22

**2017**

---

- Re-building Governance for Community Farming on the Basis of Corporate Governance Theory  
.....Haruhiko IBA ( 1)
- Agricultural Trade of China under the “New Normal” Economy:  
How to Deal with Threat of Rapidly Growing Agricultural Products’ Import  
..... Jinhu SHEN ( 13)
- The Impacts of Migration and Remittances on  
School Attainment of Children in Rural Cambodia  
.....Seiichi FUKUI and Likanan LUCH ( 41)
- Factor Endowment-commodity Output Relationships in a Three-factor,  
Two-good General Equilibrium Trade Model  
..... Yoshiaki NAKADA ( 61)
- Business Strategies and Resource Acquisition in Innovative Farm Entities:  
An Exploration of Ideal Modes of Alliance with Local Actors including Japan  
Agricultural Cooperatives (JA)  
..... Shigeaki ODA, Kiyohiko SAKAMOTO, Noriaki KAWASAKI ( 99)